

「FX特別レポート」(5/2)

今後のドル円のシナリオとは？

㈱マネー&マネー社長・吉田 恒

私はこの1-2ヶ月、講演やレポートで、「目先円安の限界、円高リスク113円が目安」との考え方を伝えてきた。結果的には、これまでのところまったくその通りとなった。では今後の予想はどうなるのかについて今回は考えてみたい。

◆当たった予測、外れた予測

私はこの1-2ヶ月、目先円安の限界、円高リスクの可能性を指摘してきた。結果的にはまさにそんな展開通りとなっているわけだが、ただ、私は予測が当たる以前から、自嘲気味にこんなことも話してきた。「根本は円安論者なのだから、予想通りの円高になっても、おそらくすぐに終わるといった話をするようになるだろう」。

そんな自分の心象風景についても、見事に予測的中。予想通り円高になった直後から、私は早くも円高の終わりへ関心が移っている。普通に考えれば、しばらく続いたレンジ相場をブレイクしたばかり、つまり「保合い放れ」の直後だから簡単に円高は終わらず、最低でも数週間から1ヶ月は続くだろうが、それは十分わかりつつも。

ところで、ユーロについては半分当たって、半分は見事に外れている。つまり私は、ユーロドルもそろそろ動きだし、1ヶ月の値幅は600ポイント程度に拡大する可能性があるとの見方を示していたが、4月の値幅はまさに600ポイント程度となった。

ただし私は、値幅が600ポイントに拡大するなら、ユーロ安なら1.18ドル、ユーロ高なら1.26ドルになるという計算となるが、個人的には1.18ドルへユーロ安になると思っていてと語っていたところ、1.26ドルへのユーロ高となった。

ドル円ではドル安を予想し、ユーロドルではドル高を予想していたわけで、両方とも当たったらそれこそ見事だったが、さすがにそれは無理だった。しかし基本的な考え方は変わっていない。ドル円のドル安予想が終わると、今度はドル円、ユーロドルともドル高予想で一致に向かう体制がいよいよ整い始めることとなるだろう。

◆「ミラー相場」の示唆とは？

ところで、私が113円前後までの円高リスクを予想した根拠の一つは、いわゆる「ミラー相場」だった。では、その「ミラー相場」は、ドル円の先行きをどのように示唆しているのだろうか。

鏡に映すと左右反対に映るように、円高と円安を逆さにすると値動きがほぼ同じということ「ミラー相場」という。ドル円は、昨年夏頃から、ちょうど一年前と上下を逆さに

して同じ値動きが最近にかけて続いていたのである。

ところで、そんな「ミラー相場」がまだ続くようなら、ドル円は 112 円程度まで円高・ドル安となり、そのまま 115 円以上に昇ることさえなく、さらに 110 円割れに向かうといったシナリオになる。

先にも述べたように、それは私の先行き予想と違うものだ。つまりこれからいよいよ、「ミラー相場」の終わりが試される段階に入っていくのではないかと思っている。(Y)

